

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	生活クラブあのねのお家		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 30日		2024年 10月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年 10月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・2時間かけて月2～3回のミーティングを行っている。	・職員が支援の在り方で困っていることや悩みを話し合い、共通認識をもって連携協力できるようにしている。	・ミーティングに限らず、個別にも体調など気軽に相談しやすい時間を作っていく。
2	・子どもたちが人権侵害に合わないよう「子どもの権利」学習を職員も子どもたちと一緒にしている。	・子どもの意見を聞いて確認する工程が定着するよう「子どもの権利」学習を繰り返し行っている。	・定期的に子どもたちの意識の変化を確認し、支援の在り方を再検討する。
3	・マンツーマンの支援が必要なお子様も多く受け入れている。	・対応困難な時期が継続する場合は、職員の配置数を考慮している。	・マンツーマンの支援で場所が離れてしまった場合、担当職員が不安なく支援できるように携帯で連絡を取りあうようにする。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・性に関する身体の発達の知識や対応の経験が少ないため、声掛けの仕方や対応が職員間で統一できていない。	・開所して7年目で子どもたちが思春期を迎え、昨年度まで施設として性教育に関する職員研修を実施していない。	・理解力に凹凸があっても、身体的な部分は年齢に沿って成長していくことを再確認する。 ・絵本を活用した個別の性教育を始めたので、子どもたちの行動の変化を見ていく。 ・わかりやすく丁寧にすすめているが、理解力に合わせた性教育の在り方につて、さらに検討していく。
2	・20代の若いスタッフが(1名)で少ない。	・若い年齢層に向けた情報発信の不足。	・SNSなどを活用し施設の活動を広く発信していく。 ・大学生アルバイトの受け入れを検討する。
3			